

香曾我部義則先生の今月のカルテ ⑩

慢性痛とペインクリニック

外科や内科に比べてなじみの少ないペインクリニック。「痛みの診療所」を意味するペインクリニックとは、どのような治療を行うのかを梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が分かりやすく説明してくれるこのコラム。第10回のカルテは「緊張型頭痛」です。

ようだと表現する人もいます。

する痛みを出す物質がたまり痛みが起これらと考えられてきました。この収縮はストレスや心理的緊張が主体となり生じるため現在では緊張型頭痛というようになりました。

緊張型頭痛は「反復発作性緊張型頭痛」と「慢性緊張型頭痛」に分類されます。発作が月15回未満、年180日未満を反復発作性緊張型頭痛とします。局所麻酔薬が筋肉の血液の流れを良くし筋肉そのものをリラックスさせる治療としては、収縮した筋肉に注射すると非常に効果がありません。また、筋肉の緊張には姿勢も関与しています。日本では正しい姿勢を取ること

あけましておめでとうございます。新す。これは日本人の頭痛の20〜30%をに発症しやすいよう実した内容を提供できるように頑張つてまいりますのでご愛読よろしくお願います。

日本人の頭痛の中で一番多い「緊張型頭痛」治療は収縮した筋肉に注射をすると効果的

占める一番多い頭痛です。本年最初のテーマです。主に中年期に

両側性のうずくような、圧迫するよううな、圧迫するよううな痛みが特徴で、前頭部や両後頭部や両項部に痛みが認められます。日常的な活動で悪化するものではありませぬ。締め付けられる感じを輪っかをはめられた

プロフィール こうそかべ・よしのり 昭和54年3月岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長を経て今年4月1日から現職。日本麻酔学会専門医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属



香曾我部義則先生

プロフィール こうそかべ・よしのり 昭和54年3月岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長を経て今年4月1日から現職。日本麻酔学会専門医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

という、月15回以上、年180日以上生じるといいます。筋付着部や靭帯(じんたい)には痛みを感じる装置が多数存在し、このような部位の周辺に直接注射を行います。また痛みを感じる装置が少ない部位では凝りと感じます。これらの場所は古来より頭痛のツボとして知られている部位と一致しています。注射以外の方法としてアスピリンに代表される痛み止めが効果を示します。慢性緊張型頭痛の治療と予防にはトリプタンノールという抗うつ薬が非常に有効です。また、筋肉の緊張には姿勢も関与しています。日本では正しい姿勢を取ること

次回「肩の痛み」についてです。 ■メモ 問い合わせ先 ☎(293) 33355(代) 日本ペインクリニック 認定施設・梶木病院(西花尻1231-1)